

つちかべぬ 土壁塗りの手順

《北区旧松澤家住宅の場合》

土壁塗りは左官職人が受け持ちます。（左官職人は、土をたたきしめてドマを造る作業やカマド造りも行います。）
 旧松澤家住宅の壁は、粘り気のある荒木田土に藁スサを混ぜて寝かせた壁土を塗って造られています。壁塗りは、柱の間に下地をつくることから始めます。下地は割り竹を縄や紐で結んで格子状に組み合わせます。これを竹小舞（たけこまい）といいます。下地ができたら、壁土を鏝で塗っていきます。壁の表裏両方を塗り終え、乾燥させたのち、その上からもう一度塗り重ねます。この上からさらに漆喰（しっくい）を塗ることもありますが、旧松澤家住宅では、2回塗ったところで仕上げとしています。



1 荒木田土に藁スサを混ぜた壁土



2 割り竹を格子状に結びつける（小舞搔き）（こまいか）



3 一層目を塗る（荒壁つけ）（あらかべ）



4 反対側を塗る（裏返し）（うらがえ）



5 二層目を塗る（中塗り）（なかぬ）



6 完成した土壁